

労働組合と協同組合の連携を強化し、職域・地域で社会的労働運動・自主福祉運動を推進しよう！ 連合福岡地協・福岡地域労福協「2018年新年講演会」

- 日 時 2018年1月24日(水) 16:30～18:00
- 場 所 ANAクラウンプラザホテル福岡 2階「クラウングラウンドボールルーム」
- 参 加 146名（各構成組織、関係団体、議員懇談会）

2018年のスタートとして、連合福岡地協、福岡地域労福協の共催による「2018年新年講演会」を開催しました。

講演会には、中央労福協アドバイザーの山本幸司さんを招き、「歴史に学び、労働組合と協同組合の連携を強化し、職域・地域で社会的労働運動・自主福祉運動を推進しよう！」と題して、雇用・就労形態の変化と劣化による貧困と格差の拡大、人口減少、少子高齢化、生産年齢人口の減少、人生100年時代の到来など、日本社会が極めて特異な時代に入らな中で、労働運動と労働者福祉運動の果たすべき社会的役割について講演をいただきました。

山本氏は講演会の冒頭、現在の日本社会が置かれている状況について触れ、「少子高齢化を原因として生産年齢人口の減少や近代家族モデルの破綻、地域社会の崩壊といった現象がおきている現在、市場原理とは異なる、支え合い・助け合い・お互い様という互酬原理に支えられたより豊かな人と人の関係が創り出されなければならない。」と提起されました。

そして、少子高齢化、地方の崩壊が急速に進む困難な時代にあっては、労働組合や福祉団体等の社会組織の結集が必要であり、何もない状態から労金・全労済を立ち上げた先人たちの「福祉は一つ」という基本理念・運動論を改めて振り返り、「支え合い・助け合い・お互い様」という豊かな人の関係を基礎とした社会運動の再構築が必要である。労働組合と福祉団体は、「業者とお客」の関係を克服し、車の両輪として共助の輪を拡大し、地域社会で子育て・いのちの世話を行う共同事業の主人公にならなければならないと強調されました。

最後に、時代の重要な転換点に立つ今、労働運動と労福協運動に求められるのは、「時代と社会に対する共通認識を形成し、避けられない現実に向かう高い志、不公平や不条理なものへの対抗、闘う姿勢、弱者に寄り添う具体的運動」であり、改めて2003年に出された連合評価委員会最終報告を振り返ることが必要であると述べられました。



講演会の様子



山本幸司さん



開会挨拶:浦瀬副議長



閉会挨拶:平田副議長

格差と貧困が拡大する日本を変えるための「社会運動」としての顔が見える連合運動、人口減少によって崩壊の過程にある地域社会を維持するための労福協運動の推進にとって、様々な示唆を与えて頂いた貴重な講演会となりました。